

## II 学校経営

### 1 教育目標

#### (1) 学校教育目標

真心で学び励む致遠の子  
—— 自立・共生 ——

#### (2) 努力目標

・思いやりのある子ども  
・進んで学習する子ども  
・明るく元気な子ども

### 2 経営の基本的態度

「知」「徳」「体」のバランスのとれた人間性豊かな子どもの育成を基底とし、「自己実現に向けて目的意識をもち、仲間と共に切磋琢磨しながら、困難や挫折を乗り越え自信と向上心をもって自立できる子」を育て、保護者・地域の信頼を得ながら特色ある学校づくりを目指す。

そのためには、校訓「至誠」に則り、教師自身がまごころをもって子どもたち一人一人の指導・支援にあたり、「やりがい」を感じながら共に向上しようとする意識改革と資質向上が必要である。さらにあらゆる分野での連携を密にし、以下の項目から日々の教育活動を推進する。

(1) 子どもは学校・地域の宝であり、職員は学校の顔であり、学校は地域と共に在る。

- ア 全教職員で一人一人の児童を指導・支援し、保護者・地域との関わりを大切にしながら、特色ある学校づくりへ向けチーム(致遠)として取り組む学校でありたい。
- イ 教師自身が自信と向上心をもつために、積極的に研修に取り組み、互いの特性を發揮させながら、共に伸びる活力ある学校でありたい。
- ウ 教育公務員として、深い愛情と使命感に燃えた教員であると同時に、魅力ある人間として、心身ともに健康で、進んで働き汗を流せる人でありたい。(V/S/O/P)

(2) 弘前市の指導方針及び新学習指導要領の提言から見る『連携』

- ア 校種間の連携(保幼・小・中、小小、二中学区)
- イ 保護者・地域・各種関係諸団体・関係機関との連携(学校安全、健全育成、就学指導)
- ウ 教育活動全体とかかわる道徳教育の強化連携(致遠10のやくそく、キャリア教育)
- エ 言語教育の充実にかかわる教科間の連携(校内研修、言語環境、図書館の充実)
- オ 体験活動の充実にかかわる「総合的な学習の時間」や特別活動との連携(ねふた集会)
- カ ALTと学級担任による外国語活動や外部講師との連携
- キ 教師同士、児童同士、教師と児童との連帯と信頼関係を結ぶ連携(開かれた学級土壌)

### 3 めざす学校像

○学ぶ喜びを感じ、明るく楽しい 活力あふれる学校

- (1) 子ども一人一人が学び方や学ぶ方法を知り「できる喜び・分かる力」を身につけ、学ぶ楽しさを実感しながら、更に向上しようと挑戦する意欲に満ちた学校。
- (2) 明るい挨拶や元気な歌声が響き合い、教師も子どもも一人一人の居場所がある学校
- (3) 学校を交流の場とし、学校・家庭・地域が互いに役割を果たしながら、共に生き、共に協力し合って(共生・協育)子どもを育てる学校

ヘッドワーク、フットワーク、ネットワーク

チーム(致遠)

## 4 学校経営方針

- (1) どの子にも学力を保障してやるべく、よくわかる授業展開の工夫に努める。
- (2) 互いに認め合い、何でも言い合える学級（学校）づくりに努める。
- (3) すべての教育活動を円滑に行うため、職員同士の連携を密にするよう努める。
- (4) 教師としての力量を高めるため、互いの研鑽に努める。
- (5) 特別支援教育に対する全校的理解と自立に向けた支援に努める。
- (6) 家庭・地域との連携を重視し、理解と信頼を得る学校づくりに努める。

## 5 経営の重点

学校経営の中心は学年経営・学級経営にあり、その原点は授業にある。

- (1) どの子にも（基礎）学力を保障してやるべく、楽しくよくわかる授業の工夫に努める  
《教材研究の深化、学力向上プランの徹底、多様な学習形態の工夫・改善》
  - ア 「わかった、できた」が実感でき、学ぶ喜びを感じる授業  
（見通しをもち、伝え合い学び合う活動を通して、変容を振り返る学習過程）
  - イ 問題解決的・体験的学習活動の充実  
（調べ学習を取り入れ、知的好奇心、探求心、学習意欲の継続を図る活動）
  - ウ 言語活動の充実  
（基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る思考力・表現力の育成）
  - エ 学び方を学ぶ学習訓練と基礎学力定着のためのシステム  
（10のやくそくの共有化、発達の段階に沿った学年団共通の系統的指導）
- (2) 互いに認め合い、何でも言い合える学級（学年・学校）づくりに努める  
《自主・自立、共感的児童理解、信頼関係、思いやり、協働》
  - ア 児童理解の深化とよさを認め自己肯定感を築く学級づくり  
（チャンス（活躍の場）を与え、認め、励ます評価、子どもと向き合う学級の時間）
  - イ 異学年集団による体験活動や交流活動の充実  
（縦割り班清掃、縦割り班全校ねぷた集会、田畑の農業体験）
  - ウ 学習空間の効果的な工夫とうるおいある環境整備  
（学習の足跡が分かる動きのある掲示、心地よい環境、温かい言葉がけ）
  - エ 各教科・領域に関連させた道徳的実践活動の推進  
（JRC活動、リトルジャンプチーム、地域行事への参加）
- (3) すべての教育活動を円滑に行うため、職員同士の連携を密にするよう努める  
《教職員の協調・協働、学年経営の充実、校務分掌の活性化、企画会議》
  - ア 年間指導計画の見直し・工夫と効果的な活用  
（望ましい姿・育てたい力を明確にし、PDCAサイクルから指導と評価の一体を図る）
  - イ 互いのよさを発揮し、組織として協働する学校づくり  
（開かれた学級、教育組織を生かした学年経営、各ブロックの連携）
  - ウ 報告・連絡・相談・確認・調整を基調とする信頼関係の向上  
（互いの目配り、気配り、思いやり、仕事に線引きなし、教職員のメンタルヘルス）

- (4) 教師としての力量を高めるため、互いの研鑽に努める  
《教師としての使命感・実践的指導力・幅広い知見、研修への積極的参加》

【教師に求められる資質・能力】

- V：バイタリティ … 教育公務員として、積極的に課題解決への使命を果たす。  
S：スペシャリティ … 専門職としての資質・向上に努め、実践力を発揮する。  
O：オリジナリティ … 教師一人一人の個性・特性を発揮し、学校運営の活性化を図る。  
P：パーソナリティ … 愛情豊かに、人間味ある一人の魅力ある大人として生活する。

- ア 学校課題解決へ向けての校内研修の充実と評価の共有化  
(基礎学力定着を図る算数科の授業実践、TT活用や学年に応じた指導法の工夫・改善)
- イ 校外研修への積極的参加と還元  
(資質・授業力向上と視野の拡大、組織内の活性化と校種間連携の充実)
- ウ 現職教育の充実  
(実践指導、今日的課題への共通理解、教職員のヘルスアップ)

- (5) 特別支援教育に対する全校的理解と自立に向けた支援に努める。  
《児童の実態把握、情報交換、通常の学級での支援、各関係機関との連絡・連携》

- ア コーディネーター及び校内特別支援教育推進委員会による支援  
(保護者・関係機関との連携による個別の計画、個に適したサポート体制の充実)
- イ 通常の学級における特別な支援  
(日常の観察、情報交換、チームを組み計画的・継続的な個別指導・支援)
- ウ 特別支援教育の理解と協力体制を図る研修の充実  
(インクルーシブ教育、特別支援にかかる校内研修・校外研修と共通理解)

- (6) 家庭・地域との連携を重視し、理解と信頼を得る学校づくりに努める  
《開かれた学校づくり、保護者や地域の方への真摯な対応》

- ア 開かれた学校として、家庭・地域とのパートナーシップの強化  
(安全・安心を守る支援体制、地域資源・人材活用による心をはぐくむ体験活動)
- イ 説明責任と情報交換を重視した相互理解の充実  
(参観日及び各種学校行事の活用、便りの発行、個別の面談、外部評価の共有)
- ウ 中学校区(小・中連携)と地域(23連合町会)に開かれた教育活動の展開  
(二中学区の情報交換、地域懇談会、いじめ防止対策、「真心づくり」活動)
- エ 家庭教育力向上による基本的生活習慣の確立  
(5つの「あ」の提唱、生活習慣の改善と食育の推進、読書や家庭学習の習慣化)
- あいさつ … 心のこもった明るいあいさつをしよう「おはよう」から始まる朝  
朝ごはん … 一日のスタートはしっかり朝ご飯を食べるところから  
あんぜん … 登下校の歩き方や自転車の乗り方等ルールとマナーを守ろう  
諦めない … 何にでも目標をもち簡単に諦めないで投げ出さないで挑戦しよう  
後始末 … 整理・整頓をこころがけ、身の回りをきれいに片付けよう

【災害、事故、いじめ、不登校、非行対策の心構え】

- さ…最悪の事態を想定する  
し…初期対応を大切にする  
す…素早い対処法で行う  
せ…誠意をもって、尽くす  
そ…組織で取り組む

※問題が起きたとき、起こりそうになったとき  
決して一人で抱え込まない。  
チーム(致遠)で、一人の問題は、みんなの問題として、共に解決へ向かう。そのためには  
教師自身が開かれた人間であること。